

在宅医療支援システム研究会次第

日時 平成27年7月28（火）

18時30分～

場所 介護老人保健施設くろかみ 研修室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告・紹介事項

(1) 平成28年度地域医療介護総合確保基金を活用する事業に係る提案について

(2) 健康寿命延伸に係る協働事業の紹介（備北保健所）

(3) 遠隔会議のテスト等について

(4) 遠隔医療従事者研修会講師派遣について

(5) その他

4 協議事項

(1) Z連携（情報共有・遠隔医療）の普及について

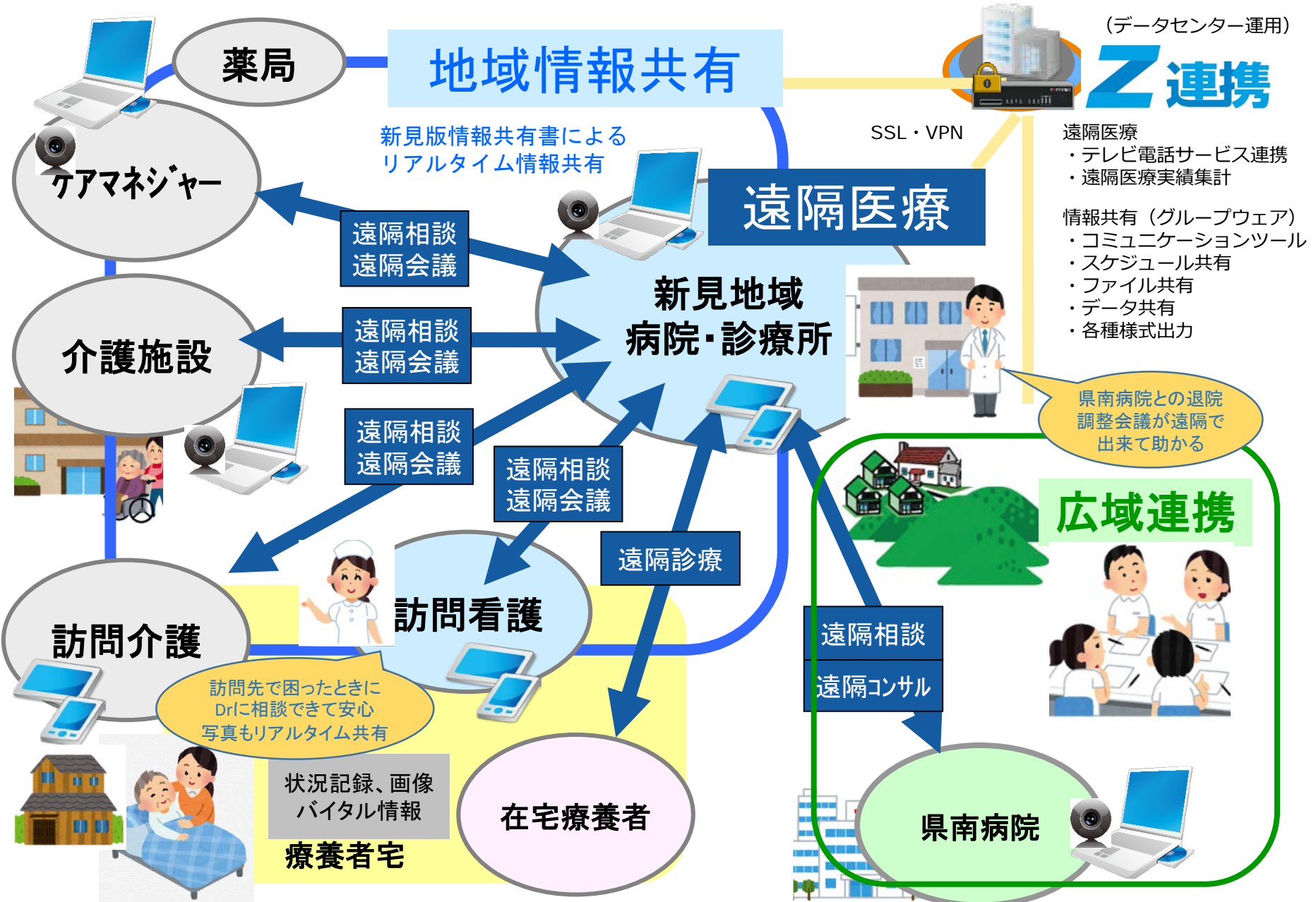
(2) その他

5 その他

次回開催日

平成27年8月 日（ ）

在宅医療支援ツール【Z連携】 遠隔医療・情報共有のイメージ



平成27年度「備中県民局協働事業」計画案

事業名 「高齢者パワーを地域で生かし、健康寿命の延伸」

趣旨 新見市の3人に1人は65才以上の高齢者（高齢化率37.7%）となり、超高齢化社会が進み生活習慣病や介護問題がクローズアップされています。

高齢者も、ただ長生きするのではなく、いきいきと元気に年を重ねる「健康寿命」が特に重要といわれています。特に団塊の世代退職後は、それまで以上に夫婦や地域の人々が支え合って健康で元気に暮らすことが求められています。

そのためには、「食生活や運動習慣」に加え「社会参加による生きがいつくり」や「地域の絆」が大切といわれています。また、高齢者自身が質の高い生活を求めるには、培ってきた経験や知識を生かし、社会を支えるなどの役割を果たすことも重要になっています。

本事業を通じて、高齢者やその予備群を含め、健康寿命の考えを広く理解してもらい健康づくりのきっかけにしてもらい、継続して取り組んでいくためにも「地域のコミュニティで絆を深める実践活動を広めていく」ことをめざします。

テーマ ～高齢者が地域の中で、生き活きと健康に暮らせる
体制づくりの推進～

具体的な内容

1 シンポジウムの開催

日時 平成27年10月16日（金）13:00～16:00（12:30受付）

場所 まなび広場にいみ小ホール

日程 受付 12:30～

開会 13:00～

基調講演 13:10～

演題「調整中」

講師 鳥取大学医学部医学科社会医学環境予防分野

教授 尾崎米厚先生

パネルディスカッション

14:50～

コーディネーター NPO きらめき広場事務局担当理事深井正氏

パネリスト

高齢者パワーを生かした地域活動 高尾長寿クラブ会長 宮地 昇さん

運動の普及を通じた活動 健康体操実践者 一柳楠子さん

食を通じた活動 新見栄養改善協議会福本地区 田中米子さん

福祉のまちづくり 思誠地区社会福祉協議会会長 乗本 進さん

男性の社会参加 正田頑固じいさんの会 調整中

閉会 16:00～

2 シンポジウムの記録集作成・配布

3 地域住民組織の主体的な取り組み事例を他の地域にも広げる活動

※事業承認時に、新見市健康づくり課・介護保険課・社会福祉協議会等へ相談しています

実施主体 にいみフォーラム

共催 岡山県備中県民局

後援依頼 新見市・新見市社会福祉協議会・新見市老人クラブ連合会・新見市教育委員会等

(参考)

備中県民局協働事業提案募集の概要

1 目的

多様化、複雑化する地域の課題やニーズ等に対して、行政が単独で対応することが困難になってきている中、NPO等からその専門性、柔軟性等を活かした事業の提案を募集し、NPO等と備中県民局が協働することにより、地域課題の効果的、効率的な解決を図ることを目的とする。

2 平成27年度提案募集の流れ

(1) 提案募集期間

平成26年12月19日(金)～平成27年1月30日(金)

(2) 応募事業数

26事業(23団体)

(3) 第一次審査

学識経験者等で構成される備中県民局協働事業審査委員会が、応募事業について書類審査を行い、第一次審査通過事業として15事業を選考した。

(4) 第二次審査

平成27年4月20日(月)に実施

3 平成26年度の実績

45事業(40団体)から応募があり、審査の結果11事業(11団体)を採択した。

1. 医療画像連携の現状

PACS (Picture Archiving and Communication System)

CT, MRI, レントゲンフィルムなどの医療用画像データをネットワークでやりとりすること

医療画像データの配信、画像の保存フォーマットは、DICOM という規格で統一されており、地域の病院と地域外専門医など、異なる病院間での連携を可能にする多くのシステムやサービスが提供されています。

しかし、連携用システムやサービスを利用するためには次の課題があります。

- ・利用料金（1施設数万円/月～程度）が必要
- ・院内の医療画像データを連携用のシステムやサービスに登録する手間がかかる
または、医療画像サーバーを連携用のシステムやサービスに連動させる費用がかかる

2. Z連携の利用

特徴

既存の端末（パソコン、タブレット、スマートフォン）で利用可能
低価格で利用可能 ※実証期間中無料

連絡BOX機能



相手（Z連携メンバー）を指定してメッセージのやり取りができる機能

- ・ファイル添付、画像添付可能
- ・メッセージ投稿するとメール通知
- ・やり取りは保存され、関係者のみ参照可能

テレビ電話連動

※現状skype

相手（Z連携メンバー）を指定してテレビ電話をかけられる機能

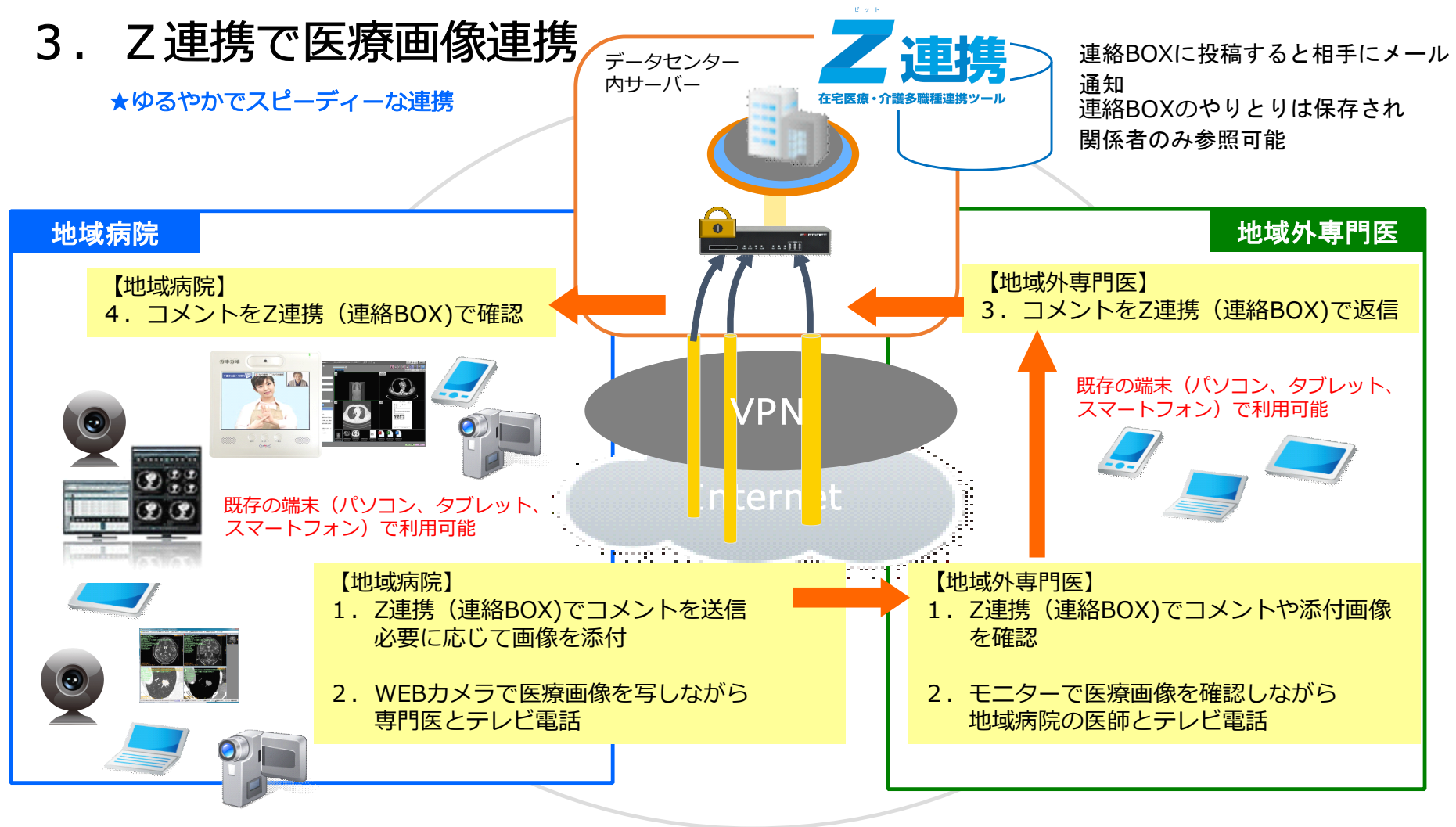
- ・実績、メッセージを記録、関係者のみ参照可能

★ゆるやかでスピーディーな連携

院内の医療画像データを
テレビ電話で写して
専門医のコンサルテーション
を受ける

3. Z連携で医療画像連携

★ゆるやかでスピーディーな連携



運用ポリシー 個人を特定できる情報は付与しない。療養者情報とも紐付けしない。

差出人: Takashi Hasegawa <takahasegawa-mi@umin.ac.jp>
送信日時: 2015年7月25日土曜日 19:46
宛先: 太田隆正
CC: kuniyoshi_oote
件名: H27 遠隔医療従事者研修、講師のお願い

太田先生

お世話になっております。
今年度も、遠隔医療従事者研修事業に応募して、採択されました。

昨年と近い日程で、11月13日（金）～15日（日）に東京会場、11月27日（金）～29日（日）に大阪会場を実施します。

ご多忙中を恐縮ですが、昨年同様に講演をお願いできないでしょうか？
太田先生から地域包括ケアまで含めたご講演、金山先生や小郷さんから看護師の役割などをお話し頂ければと思います。

日程上の都合で大阪会場で午後半日（昨年と同じ時間数をお願いしたいと考えております。
内容も、昨年のお話が好評だったので、同じくお願いできれば幸いです。

ご都合は、下記フォームでお教えいただければ幸いです。

***** 実習候補日時回答書式 *****
大阪会場
(1) 11月28日（土） 午後 [/ ×]
(2) 11月29日（日） 午後 [/ ×]

よろしく願いいたします。

群馬大学医学部附属病院システム統合センター
厚労科研遠隔医療研究班
日本遠隔医療学会常務理事
長谷川高志
電話：027-220-8772 FAX 027-220-8770
携帯電話 090-8014-9676
メール：takahasegawa-mi@umin.ac.jp

平成26年度
厚生労働省事業

参加費
無料

(受講料、教材費含む)

遠隔医療従事者研修

地域包括ケアの時代を迎えて、皆様の身近で遠隔医療の活用が始まります。テレビ電話を用いた在宅患者への遠隔診療、生体情報のモニタリングによる慢性疾患管理など、遠隔医療の基本技術の実習、遠隔医療の技術や社会制度について、コンパクトに学べる研修です。日本の最高の遠隔医療研究者を講師に迎えて、実践的に学習できます。

平成26年

11月14日(金)~16日(日)

東京(信濃町)

平成26年

11月28日(金)~30日(日)

大阪(心斎橋)

※ 東京会場・大阪会場の研修内容は同じです。

開催概要

- 入門コース
- 基礎コース(制度編)
- 基礎コース(技術編)
- モニタリング・疾病管理コース
- 在宅医療・テレビ電話診療コース
- 地域医療・災害医療コース

コース毎に受講できます。
修了証を発行します。

対象者 および 募集人数

- 医療関係者 医師、看護師、薬剤師、PT/OT/ST、放射線系技師、検査系技師等
- 介護関係者 管理者、一般
- 病院関係者 管理者、事務職員、技術職員、関連業者職員
- 行政関係者 国、都道府県、市町村、独立行政法人、等

東京・大阪各々
定員 60名

申込期間

開始 9月中旬 ▶ 終了 10月末日

申込 詳細

お申込み・詳細は下記 URL をご覧ください。
<http://j-telemed-s.jp/seminar2014/>

講師陣

酒巻 哲夫(群馬大学、高崎市医師会看護専門学校)、郡 隆之(利根中央病院)
亀井 智子(聖路加国際大学)、森田 浩之(岐阜大学附属病院総合内科)、
小笠原 文雄(医療法人聖徳会小笠原内科)、太田 隆正(緑隆会太田病院)、
中島 直樹(九州大学)、本多 正幸(長崎大学) 他

✉ E-mail : telemed-seminar@j-telemed-s.jp

主催：特定非営利活動法人日本遠隔医療協会

後援：一般社団法人日本遠隔医療学会